

上位機で開発した技術を結集 「IV」を冠したシリーズ中核機



エントリーから一歩進んだスマートモデル

TechDAS

Air Force IV

アナログプレーヤー(アームレス)

¥2,750,000(税込)

2025年9月中旬発売予定

Specifications

●駆動方式:精密両面研磨 ポリエステル繊維平ベルトドライブ●ワウフラッター:0.03%以下●総慣性モーメント:734kg・cm●サイズ(フット含む):420.5W×168H×368Dmm●質量:34.3kg●消費電力:50W●取り扱い:(株)ステラ

Profile

独自のエアアーテクノロジーにより、静寂性や高いSN比といったデジタルの利点をクリアし、「現代のアナログサウンド」を実現するAir Forceシリーズ。最新作となるAir Force IVは、アルミ無垢のブロックから切削加工した一体型プラッターや、低振動2相4極ACシンクロモーター、特殊な4本のサスペンションフットなど、上位モデルの技術を出し惜みなく搭載。価格を抑えながらも、エントリーモデルのAirForce Vから一歩進んだエアアーフォーステクノロジーが楽しめる画期的なプレーヤーである。

レコードプレーヤーの筐体は最終進化形を暗示するようだ

テクダスがAir Force IVを発表した。テクダスはハイエンドオーディオ機器の輸入商社、ステラ／ゼファンの創業者である故・西川英章氏が、自らが理想とするレコードプレーヤーを実現するために興したブランドである。その初号機であるAir Force Oneが世に出たのは2012年のこと。プラッターを空気で浮かせつつレコード盤を空気で吸着するその機構と、巨大かつ高剛性なその筐体はレコードプレーヤーの最終進化形を暗示しているかのようだった。そして同社はAir Force Oneの兄弟たちを次々と市場に送り出す。

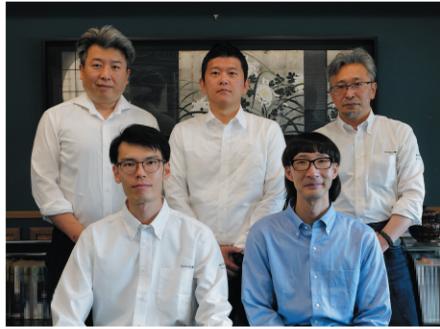
Air Force IVはエントリーモデルの「V」のアップグレードバージョンに位置づけられる。「V」ではプラッターの下部に仕込まれたサブプラッターをモーターが駆動するのに対して、「IV」では主筐体左部の2本の強固なブラケットに吊り下げられたモーターが「One」と同様の無垢アルミブ

ックを切削加工した8・7kgプラッターを回転させる。ポリエスチル繊維製の駆動ベルトは比較的幅広・薄型で、素材の共振モードを排除すべくテンションはぎりぎりまで低く抑えられている。主筐体・モーター部とも材質はプラッターと同じアルミニウムの削り出しで、剛性は極めて高い。電源部は別筐体で、これにエアポンプが内蔵されている。本体とはケーブルと2本のエアパイプで接続される。トーンアームは最多で3本まで搭載可能。2本目からはアームベースを買い足す必要がある。

試聴機に取り付けたトーンアームはイケダの12インチモデルIT-407CR-1。これはテクダスブランドのトーンアーム、Air Force 10との価格的なバランスを考慮しての選択である。これにテクダスのダイヤモンドカンチレバー・カートリッジTDC-01D iaを装着して取材を実施した。本機の操作はフロント側手前のパネル上で行う。回転数を示すボタンを押すとプラッターが回転しはじめる。所期の回転数が得られるとインジケーターにlockの文字が表示されて回転

Text by
石原 俊
Shun Ishibara

Photo by 田代法生



株式会社ステラ
TechDAS開発・製造チーム
(写真左上から時計回りに)

丹治正人氏、福地泰樹氏、清水一氏
山本章央氏、青柳幸平氏

オリジナルAir Force IIIと同価格帯で、同等の性能を備えたモデルの登場を望む声をいただいております。そこで2年前から開発を開始し、コンパクトな筐体を活かしつつ、上位機種同様の技術を可能な限り取り入れました。アルミ無垢の重量プлатターや本体から隔離した低振動モーター、上位機種と同じ特殊表面研磨ポリエステルベルト駆動、Air Force III Premium S同等のサスペンション構造等により、高精度な回転と高S/N比を実現。小さくても音の立体感や解像度に妥協のないAir Force IVが完成し、昨年のAir Force 10に続き、TechDASシリーズのラインアップをさらに充実させることができました。

音が「美しく」聴こえるのだ。ここが本機最大の音楽的特徴と言えられるかもしれない。ヴォーカルは録音にもよると思うが、少なくとも筆者が試聴に供したサラ・ヴォーソンの『アフター・アワーズ』ではリアリズムとは少し違う傾向の音が出たように思う。サラがそこにいて筆者のために歌ってくれているというよりも、マイクロフォンや録音設備の質感が音に乗っているのだ。いわゆるナローレンジでは決してないし、音像や

試聴音源



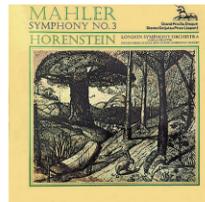
『トゥー・コード』大橋祐子リリオ (寺島レコード TYLP-1071)



『Snapper』松尾 明 New Frontier Quintet (寺島レコード TYLP-1013)



『After Hours』Sarah Vaughan (Roulette YW-7518-RO)



『マラー：交響曲第3番ニ短調』ヤツジャ・ホーレンシュタイン (UNICORN PAC-3514-15)



試聴機材
●フォノコライザーアンプ
アキュフェーズ C-57
●プリアンプ
アキュフェーズ C-3900
●パワーアンプ
アキュフェーズ P-7500
●スピーカー
Bowers & Wilkins 802D4

「美しく」聴こえる音だ。以下にジャンル別のインプレッションを記す。ジャズは清潔

音場は極めて清潔だ。アナログ再生にありがちな雑味(それを「味わい」とか「コク」と呼ぶ人もおられるだろう)がなく、キレイな空気が試聴室の壁を突き抜けてどこまでも広がっている。静粛性も高い。清潔で静かな音場を「聴感上のS/N比が高い」などという言い回しでしばしば描写するが、そういうった手垢にまみれた言い方をするのが気恥ずかしくなるほどだ。本誌新試聴室を使い始めて1年と2カ月が経過したが、本機の音こそがこの部屋で鳴った最良の音といっても過言ではない。

音場が汚れているわけでもないのだが、前世紀中頃の機材の共振モードが乗っているように感じられる。だが、その共振モードにビンテージ感があって、思わず「いい音だ!」と心の中で叫んでいる自分を発見する。クラシックはマーラーの3番を聴いたのだが、冒頭の8本のホルンの強奏が素晴らしかった。このくだりはホルンの音が好むと好まざるにかかわらず割れてしまいうのだが、ジャズで聴けたのと同様、歪んだ音が美しい。メロディは途中からほぼ二つに分かれるのだが、どの奏者がA旋律を吹き、どの奏者がB旋律を吹いているのかが「見える」かのような高分解能で描かれる。この視覚的な表現もまた本機の音楽的特徴だと言えよう。

音が「美しく」聴こえるのだ。ここが本機最大の音楽的特徴と言えられるかもしれない。ヴォーカルは録音にもよると思うが、少なくとも筆者が試聴に供したサラ・ヴォーソンの『アフター・アワーズ』ではリアリズムとは少し違う傾向の音が出たように思う。サラがそこにいて筆者のために歌ってくれているというよりも、マイクロフォンや録音設備の質感が音に乗っているのだ。いわゆるナローレンジでは決してないし、音像や

共振モードにビンテージ感があって「いい音だ!」と心の中で叫んでいた

音が「美しく」聴こえる音だ。以下にジャンル別のインプレッションを記す。ジャズは清潔

音場は極めて清潔だ。アナログ再生にありがちな雑味(それを「味わい」とか「コク」と呼ぶ人もおられるだろう)がなく、キレイな空気が試聴室の壁を突き抜けてどこまでも広がっている。静粛性も高い。清潔で静かな音場を「聴感上のS/N比が高い」などという言い回しでしばしば描写するが、そういうった手垢にまみれた言い方をするのが気恥ずかしくなるほどだ。本誌新試聴室を使い始めて1年と2カ月が経過したが、本機の音こそがこの部屋で鳴った最良の音といっても過言ではない。

音場が汚れているわけでもないのだが、前世紀中頃の機材の共振モードが乗っているように感じられる。だが、その共振モードにビンテージ感があって、思わず「いい音だ!」と心の中で叫んでいる自分を発見する。クラシックはマーラーの3番を聴いたのだが、冒頭の8本のホルンの強奏が素晴らしかった。このくだりはホルンの音が好むと好まざるにかかわらず割れてしまいうのだが、ジャズで聴けたのと同様、歪んだ音が美しい。メロディは途中からほぼ二つに分かれるのだが、どの奏者がA旋律を吹き、どの奏者がB旋律を吹いているのかが「見える」かのような高分解能で描かれる。この視覚的な表現もまた本機の音楽的特徴だと言えよう。

音が「美しく」聴こえるのだ。ここが本機最大の音楽的特徴と言えられるかもしれない。ヴォーカルは録音にもよると思うが、少なくとも筆者が試聴に供したサラ・ヴォーソンの『アフター・アワーズ』ではリアリズムとは少し違う傾向の音が出たように思う。サラがそこにいて筆者のために歌ってくれているというよりも、マイクロフォンや録音設備の質感が音に乗っているのだ。いわゆるナローレンジでは決してないし、音像や

音が「美しく」聴こえる音だ。以下にジャンル別のインプレッションを記す。ジャズは清潔

音場は極めて清潔だ。アナログ再生にありがちな雑味(それを「味わい」とか「コク」と呼ぶ人もおられるだろう)がなく、キレイな空気が試聴室の壁を突き抜けてどこまでも広がっている。静粛性も高い。清潔で静かな音場を「聴感上のS/N比が高い」などという言い回しでしばしば描写するが、そういうった手垢にまみれた言い方をするのが気恥ずかしくなるほどだ。本誌新試聴室を使い始めて1年と2カ月が経過したが、本機の音こそがこの部屋で鳴った最良の音といっても過言ではない。

音が「美しく」聴こえるのだ。ここが本機最大の音楽的特徴と言えられるかもしれない。ヴォーカルは録音にもよると思うが、少なくとも筆者が試聴に供したサラ・ヴォーソンの『アフター・アワーズ』ではリアリズムとは少し違う傾向の音が出たように思う。サラがそこにいて筆者のために歌ってくれているというよりも、マイクロフォンや録音設備の質感が音に乗っているのだ。いわゆるナローレンジでは決してないし、音像や

音が「美しく」聴こえるのだ。ここが本機最大の音楽的特徴と言えられるかもしれない。ヴォーカルは録音にもよると思うが、少なくとも筆者が試聴に供したサラ・ヴォーソンの『アフター・アワーズ』ではリアリズムとは少し違う傾向の音が出たように思う。サラがそこにいて筆者のために歌ってくれているというよりも、マイクロフォンや録音設備の質感が音に乗っているのだ。いわゆるナローレンジでは決してないし、音像や



リアパネルには、パワーサプライ部に繋ぐ「Flotation」「Vacuum」端子を装備(その他は、製品出荷時に変更になる場合あり)。駆動ベルトは上位と同じ幅4mmの平ベルト採用する

音が「美しく」聴こえる音だ。以下にジャンル別のインプレッションを記す。ジャズは清潔

音が「美しく」聴こえる音だ。以下にジャンル別のインプレッションを記す。ジャズは清潔

音が「美しく」聴こえる音だ。以下にジャンル別のインプレッションを記す。ジャズは清潔

音が「美しく」聴こえる音だ。以下にジャンル別のインプレッションを記す。ジャズは清潔



お好みのトーンアームに合わせて製作してくれるベースがひとつ付属する